

1 中学年用「いただきます」 指導例

物質的に豊かな現代において、食べ物や食に関わる仕事など生活を支える人々への尊敬や感謝の念を児童に育む機会は減ってきている。食べるという営みを通して他の生き物の生命をもらいながら自分たちが生きていることに気付かせ、生き物の生命への感謝とともに、食べ物として手もとに届くまでの様々な仕事している人々への感謝の気持ちを育てることをねらいとして、本資料を作成した。

本県大和郡山市の食肉流通センターには、家畜として人間のために役立つくれる生き物への感謝を込めて「屠畜慰霊碑」が建てられており、人権教育テキスト『なかま 中学年用』（奈良県人権教育研究会 編）所収の「なき声以外は、ムダにしない」の中にも取り上げられている。同様の建造物は全国にあり、本資料では、隣県である和歌山県の「くじら供養碑」を取り上げている。主人公が父と和歌山に帰省した折に、祖母の料理や「くじら博物館」等の訪問を通して、食物として自分たちの生命を支えている生き物や、暮らしを支える様々な仕事をしている人々に対する感謝の念を深める姿を描いている。本県の「屠畜慰霊碑」ともつなげて、生命への感謝を忘れず暮らしを営んできた人々に思いを馳せさせたい。こうしたことから、「なき声以外は、ムダにしない」の内容を生かして本資料を活用することが効果的であり、既習であれば別掲の資料を活用し、展開後段に学習を振り返らせることもできる。

なお、「なき声以外は、ムダにしない」とされていた牛であるが、現在はBSE対策として、脊柱をはじめ、頭部や脊髄などは焼却処分される部位があり、血液も使用されていない。

- ◆ **主題名** 「いただきます」の心 指導内容 中2-(4)
- 資料名** いただきます (奈良県郷土資料 県教育委員会)

◆ ねらい

和歌山での様々な経験を通して、食べ物に対する父の思いを実感し、自分の身近な生活の中でも命を「いただく」ことに感謝しようとするようになった主人公の心情の変化について話し合うことを通して、食物として自分たちの生命を支えている生き物や、暮らしを支える様々な仕事をしている人々に対して、感謝しようとする態度を育てる。

◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、今日の給食の献立を見る。	○ 今日の給食の献立を見てみましょう。 ・ビビンバ大好き。牛肉がおいしい。お代わりあるかな。 ・牛乳は冷たくないと思ひにくいな。	・自由に話し合わせ、本時の資料への導入とする。	
展 開	2、資料「いただきます」を読んで話し合う。	○ 夕食の時、サトコはどんな気持ちから「いただきます。」と言ったのでしょうか。 ・夕食を作ってくれたお父さんへのお礼。 ・言わないとおこられるから。 ・何も考えずに言っている。	・魚が苦手な主人公の気持ちなどを押さえながら、父の「いただきます」という言葉に対する思いに気付いていない主人公に着目させる。	

展		<ul style="list-style-type: none"> ○ おばあちゃんやお父さんの言葉を聞き、サトコはどんなことを思ったでしょう。 ・魚っておいしいんだな。骨まで食べられるんだな。 ・おばあちゃんは食べることを、命をいただくって言った。お父さんの気持ちも同じなんだ。 ・魚の命を無駄にしないように工夫をしてきたんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「命をいただく」や「魚にもしわけない」という言葉や、とった魚を無駄にしないように丸ごと食べたり、保存の工夫をしたりしてきたことから、祖母や父の魚の命に対する感謝の思いに気付かせる。 	
開	3、自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「くじら供養碑」を見て、サトコはどんなことを考えたのでしょうか。 ・漁師さんたちは、とった鯨の命をとっても大切にしてきたんだ。 ・魚も鯨も命を無駄にしないように工夫してきたのは同じだな。 ・お父さんが「いただきます」をうるさく言っていたのは、命をいただくからなんだ。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ いつもより大きな声で「いただきます」と言ったサトコは、どんなことを考えたのでしょうか。 ・奈良県にも「屠畜慰霊碑」があったんだ。生き物の命に感謝する気持ちは同じなんだな。 ・苦手な食べ物も、残さず感謝して食べたいな。 ・食べ物を届けてくれる人や給食を作ってくれた人にも「いただきます」と言おう。 ・これからは食べ物のことをもっとしっかりと考えて、大切にしていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 食べ物を大切にしたい、感謝して食べたいと思ったことはありませんか。 ・食べ物が腐ってしまったとき。 ・食べ物のお店で働いている人から話を聞いたとき。 ・乳牛を見たとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「くじら供養碑」をつくった人々の気持ちに思いを巡らせるようにし、魚を食べる工夫や鯨の体を無駄にしない工夫は、生き物の命への人々の感謝の心のあることであることに気付かせ、父の「いただきます」に込めた思いに気付いた主人公に共感できるようにする。 ・奈良県にも同じように生き物の命に感謝する碑があることを知った主人公の心情とともに、命をいただく生き物に対してだけでなく、生き物の命を大切にし、食べ物として自分たちのもとへ届ける仕事をしている人々がいることに思いを至らせるようにし、「いただきます」に込めた感謝の念を深くとらえられるようにする。 ・生活経験や、生活科・総合的な学習の時間などに感じたり考えたりしたことを想起させ、実感をもって考えられるようにすることで、実践意欲や態度を育てる。 ※別掲の資料を活用する場合は、ここで「なき声以外はムダにしない」の学習を振り返らせるとよい。 	ワークシート
終末	4、指導者の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「こころのノート 小学校3・4年」(平成25年度版) 51ページを開きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」のまど・みちおさんの詩「朝がくると」を読んだり、指導者の体験を話したりして、生活を支える様々な人・こと・ものに対する感謝の気持ちを温める。 	「心のノート」(平成25年度版)